



2024年

交流センターだより



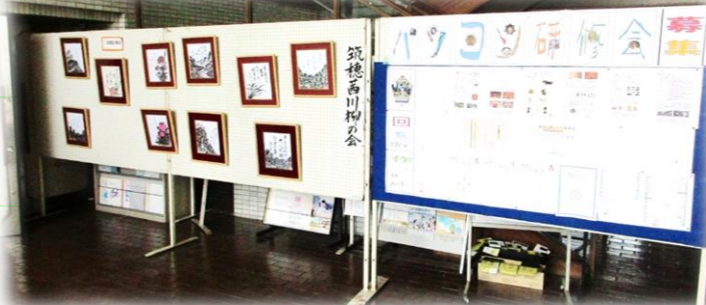
月号

No. 074

〒820-0701 飯塚市長尾1340番地 電話：72-2204 FAX：72-2426

2月末現在の筑穂地区の人口 (前月比)

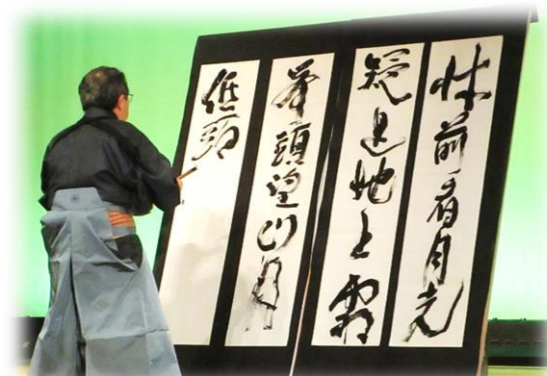
	4,417	世帯	(-4)
男	4,373	人	(-9)
女	4,799	人	(-4)
合計	9,172	人	(-13)



拍手喝采 <筑穂交流センターまつり>

3月2日(土)、3月3日(日)に筑穂交流センターまつりが開催されました。

参加されたサークル生のみなさん及び文化祭実行委員会のみなさん、筑穂地区の団体のみなさんありがとうございました。



味噌づくり講座

3月6日水曜日に講師の栗木千代香先生をお招きして、昨年大好評だった味噌づくり講座を今年度も開催しました。

今回は、きり麴を使用し、ゆでた大豆と合わせ、簡単に味噌を作り、先生が事前に漬けられた人参としょうがの味噌漬けも試食しました。

昨年作った味噌がおいしかったので今年も参加しましたという方もいらっしゃいました。

今年も、多くの皆さまにご参加いただきました。ありがとうございました。

令和6年度も、多くの地域の皆様、子育て中の保護者の皆様に、楽しんでいただける講座を開催したいと思っています。令和6年度も、多くの皆様のご参加をお待ちしています。



令和6年度 塾生募集!!



【熟年者マナビ塾とは…】

飯塚市の各地で熟年者の方々が週に1度地元小学校に通い、熟年期・高齢期を元気に過ごすための自主的な活動や、ご自身の知恵や技術を見習いへ伝える学習支援などの活動を行う事業です。

内容は、塾生自身のやりたいことを各塾内の話し合いで決めてもらうので、塾生のやりたいことが授業になります♪

筑穂地区では大分小学校、上穂波小学校、内野小学校で活動します。

【対象者】 60歳以上で各小学校区にお住まいの方

【問合せ・申込み先】 筑穂交流センター

電話72-2204 FAX72-2426

ウクレレサークル生募集

令和6年度よりウクレレサークルが開設される予定です。日程や時間はサークル生同士で話し合って決めますので興味のある方はお問い合わせください。

【問合せ先】 筑穂交流センター 電話72-2204

楽しかったポッチャ大会

去る2月17日(土)、筑穂体育館におきまして、ポッチャ大会を開催しました。

筑穂交流センターだよりを通して、筑穂地区在住の障がいのある人とその家族及び支援者を中心に広く募集をしたところ、40名を超える参加がありました。

当日は民生委員さん、社会福祉協議会の皆さんのサポートのもと、あかね園、セルフ筑穂、手をつなぐ親の会などの団体参加の方々、一般参加の方など、たくさんの方たちと交流することができました。

入賞賞品は、飯塚市役所筑穂支所内にある「ふれあいカフェ」のお食事券をまちづくり協議会から提供していただき、また、参加賞としてセルフ筑穂のお菓子とあかね園からのキーホルダーをセットにしてお渡ししました。

来年も第2回ポッチャ大会を考えています。参加、ご支援をよろしくお願いいたします。



筑穂地区障がい者協議会 代表 矢野 隆司



茜さす

～全国水平社の創立と展開～

1922年(大正11)3月3日、京都の岡崎公会堂で全国水平社創立大会が開かれました。「人間を尊敬することによって自ら解放せん」の精神で部落差別解消を目指したこの運動は、その後「燎原の火のごとく」全国に拡大していきました。

1923年(大正12)5月1日、福岡市東区の博多座で全九州水平社(委員長に松本治一郎氏)、7月1日には福岡県水平社が創立されています。

筑穂地区の水平社運動については、以下の記録が筑穂町誌下巻に記載されていました。

「嘉穂郡大分村も、決死の闘士の奮戦により、5月18日には遂に同村小学校に於いて、高らかに勝利の歌をあぐることが出来た。」(全九州水平社機関紙「水平月報」より抜粋)

およそ100年前の筑穂地区で奮闘されてきた人々の姿は、人権のまちづくりに取り組む私たちに大きな示唆を与えています。

筑穂交流センター

地域活動指導員 松原 潔

今月の川柳

筑穂茜川柳会(サークル)

和田 英一 選

毎月第二火曜日 午後1時～3時
筑穂交流センター2階
入会者 募集中
一緒に笑って楽しませるか



お車運初
隣事賭慰
さん故問
ん反て笑
ん応ク顔
援なイで
ししズ応
あ懸懸
う気賞
過に顔
疎か募
のかす
町るる

伊白久古
藤水保賀
久美珠美
子恵子子

▼ 課題 『 音 』
風鈴のやさしい音色にいやされる
ドライプで方向音痴にマホ地
世界中に音を響かせた人
追突音が気がつき呆然と
鳥たち音で知られようなら
騒音と言われぬようにピアノ
▼ 課題 『 恩 』

中白明繁渡二
島水石原邊田
あき珠憲芳宏望
子恵子子子

子謝ド恩親
育恩ラ人の
て会ライの
の先生ブを
苦勞はど何
が沁こも時
みる皆立も
る白ち八
親髪寄十
のる慈坂
恩の恩の
滴

原和古久明
田賀保石
美英秀美憲
千一子子子